

潟上市・結婚に関するアンケート調査【概要】

1. 調査目的

「潟上市人口ビジョン」及び「潟上市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に必要な資料である、結婚・妊娠・出産・子育てに関する意識や希望調査のうち、結婚に特化したアンケート調査を行い、本市における今後の結婚支援事業の展開へ必要な集計・分析を行うことを目的として実施した。

2. 調査設計

調査対象	潟上市内在住の20歳以上40歳未満の市民 男性：500名 女性：500名（未婚、既婚は問わない）
抽出方法	上記対象者の中から無作為抽出
調査方法	郵送配付－郵送回収
調査期間	平成27年6月8日～平成27年6月29日

3. 回収結果

配付数	回収数	有効回収数	有効回収率
1,000票	262票	258票	25.8%

4. 既婚・未婚（離別・死別を含む）の状況

【性別】

上段：件数 下段：%	調査数	既婚	未婚	死別 離別 ・	無回答
全体	258 100.0	150 58.1	94 36.4	14 5.4	0 0.0
男性	88 100.0	49 55.7	37 42.0	2 2.3	0 0.0
女性	170 100.0	101 59.4	57 33.5	12 7.1	0 0.0

【年齢別】

上段：件数 下段：%	調査数	既婚	未婚	死別 離別 ・	無回答
全体	258 100.0	150 58.1	94 36.4	14 5.4	0 0.0
20歳～24歳	38 100.0	4 10.5	34 89.5	0 0.0	0 0.0
25歳～29歳	62 100.0	28 45.2	32 51.6	2 3.2	0 0.0
30歳～34歳	70 100.0	55 78.6	10 14.3	5 7.1	0 0.0
35歳～39歳	88 100.0	63 71.6	18 20.5	7 8.0	0 0.0

5. 調査結果（抜粋）

（1）結婚意思

「未婚」「離別・死別」（結婚されていない）と回答した方に結婚の意思をたずねたところ、「したい」（37.0%）が最も多く、次いで「できればしたい」（34.3%）となっており、「したい」と「できればしたい」を合わせた“結婚したい”と回答した方は71.3%となっている。

性別でみると、女性は「したい」が42.0%と最も多いが、男性は「できればしたい」が41.0%と最も多くなっており、女性の方が結婚の希望が強いことがうかがえる。

この若い世代の“結婚したい”という希望をかなえるため、出会いの場の創出や、情報提供などの取り組みが求められる。

※現在、潟上市では市民に対して「あきた結婚支援センター」への登録料の助成や、結婚に関する相談の受付を行っている。

（2）現在のお付き合いの状況

「未婚」「離別・死別」（結婚されていない）と回答した方に、現在のお付き合いの状況についてたずねたところ、「特に、お付き合いしている人はいない」（63.9%）が最も多く、以下「お付き合いをしている人はいるが、結婚するかはわからない」（16.7%）、「結婚を前提としたお付き合いをしている人がいる」（13.9%）、「お付き合いをしている人はいるが、結婚はしないと思う」（1.9%）となっている。

（3）普段の生活の中で結婚相手に出会う機会

普段の生活の中で結婚相手に出会う機会についてたずねたところ、「あまりあるとは思えない」（36.0%）が最も多く、以下「時々あると思う」（26.0%）、「あると思う」（21.7%）、「まったくあるとは思えない」（10.5%）となっている。

「あると思う」と「時々あると思う」を合わせた“あると思う”と回答した方は47.7%、「あまりあるとは思えない」と「まったくあるとは思えない」を合わせた“あるとは思えない”と回答した方は46.5%でほぼ半々となっている。

既婚・未婚別でみると、既婚者は61.4%が“あると思う”、未婚者は64.8%が“あるとは思えない”と回答している。また、居住期間別でみると、潟上市生まれではないが、潟上市に住んでいる方は57.4%が“あると思う”となっているが、生まれてからずっと潟上市に住んでいる方は59.1%が“あるとは思えない”と回答している。

以上のことから、既婚・未婚別、居住期間別で、出会いの有無の捉え方が異なっていることが伺える。

新たな出会いの場の創出のほかに、未婚者や生まれてからずっと潟上市に住んでいる方の“出会いがあるとは思えない”という捉え方を変えるような、結婚に対する意識啓発が必要と考えられる。

(4) 婚活の状況

「特に、お付き合いしている人はいない」「その他」と回答した方に、婚活の状況についてたずねたところ、「特に婚活はしていない」(78.3%)が最も多く、一方「現在婚活をしている」は11.6%となっている。年齢別で見ると、いずれの年代も婚活をしている方が少ないが、25歳～29歳では「現在婚活をしている」がやや多くなっている。

また、20歳～29歳では「婚活をしてみたいが、どうしたらよいかわからない」との回答もあることから、イベントや紹介など“出会いの場”の情報提供が必要と感じる。

(5) 結婚支援を進める上で、行政に充実してほしい施策

行政に充実してほしい施策についてたずねたところ、「住宅費用の支援」(52.3%)、以下「結婚祝い金などの制度」(45.3%)、「出会いの場(婚活イベントなど)の創出」(38.8%)、「結婚が望ましいと思える雰囲気づくり(気運の醸成)」(16.3%)、「結婚サポーター(出会いを支援するボランティア)の活動支援」(10.9%)などとなっている。

既婚・未婚別で見ると、既婚者は「住宅費用の支援」、「結婚祝い金などの制度」が未婚者より多くなっている。年齢別で見ると、25歳～34歳では「住宅費用の支援」が6割以上と多くなっている。性・年代別で見ると、「結婚祝い金などの制度」は男性、女性ともに20代で5割以上となっている。

祝い金や費用の支援が多く求められており、若い世代の安定した就労環境の整備や、生活基盤を安定させるための支援が必要と思われる。